

2007.10.31

博報堂生活総合研究所「子供の生活10年変化」

アフターバブル・キッズ徹底調査 結果発表

～ 1997年と2007年、日本の子供の意識と行動はどう変わったか？～

増やしたい時間は「睡眠時間」が約65%。**「時間」「いい成績」「自由」が欲しい子供たち。****「本をよく読む」子供は37.6%に。10年前より約15ポイント増加。**

博報堂生活総合研究所では、10年前(1997年)に行った、小学4年生～中学2年生対象の「子供調査」を、今年(2007年)、同年代の子供たちに行いました。この調査結果から、“アフターバブル・キッズ”(1992～97年生まれ)と、10年前の子供たち(1982～87年生まれ)との生活行動や意識を比較分析しましたのでご紹介します。

[要旨]

1997年調査では、他者との人間関係や社会システムの変化に対してスイスイと機敏に適応する子供の姿を“アメンボキッズ”と名づけました。一方、2007年調査からは、**ゆとりが減り忙しくなった子供たちが、勉強やスポーツや人間関係のバランスをとりながら、やりくりをしている姿**が見えてきました。今の子供たちは、**学校で緩やかな「関係」を確保、家でしっかり「休息」を確保、興味関心の場で「自我」を確保と、“暮らしの3点確保”を意識し、バランスをとって生活しています。**社会の閉塞期でもある「失われた10年」に生まれ育った子供たちゆえの特徴です。

[調査結果のポイント]

■ “アフターバブル・キッズ”は、ゆとりなき“ゆとり教育”世代。

- ・「時間」「いい成績」「自由」が欲しい子供が増大。増やしたい時間の1位は「睡眠時間」約65%。
- ・「時間的なゆとりがない」子供は30.6%→41.6%へ増大。友達と遊ぶより勉強中心。

■ 友達の数は51人→67人に増加。

友達への関心が高まるなか、うまく緩やかな“関係”を確保。

- ・子供たちがもっと知りたいことのトップは「友達の話」(48.1%)で、10年で8.9ポイント増加。

■ 家庭での関係は良好に。家は自分を解放できる“休息”の場所。

- ・親子コミュニケーションは上々。3人に1人が「本をよく読む」。コンテンツで感動して泣く子供が約85%。

■ 興味関心の場で、“自我”の形成に励む、たくましい子供たち。

- ・「興味ある話は自分で調べる」「ライバルがいる」「習い事は自分の意志で決める」が過半数。

本件に関するお問い合わせ先

博報堂生活総合研究所 吉川・山本(貴) TEL: 03-3233-6450

10年変化 ① “アフターバブル・キッズ” は、ゆとりなき “ゆとり教育” 世代。

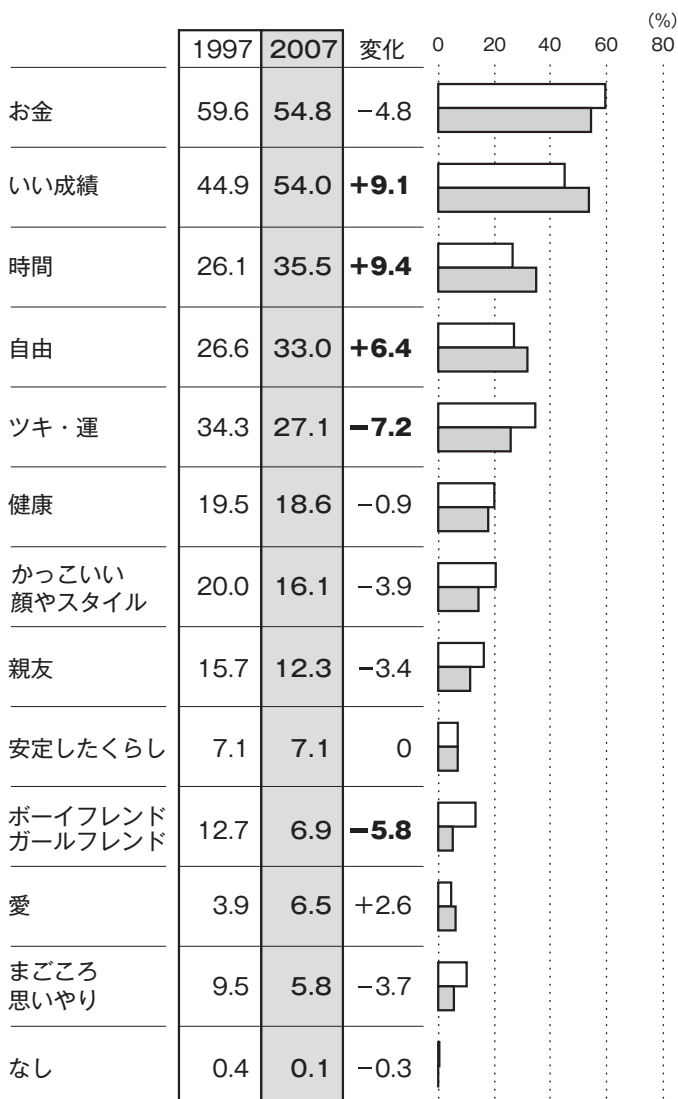
10年間で「時間」「いい成績」「自由」が欲しい子供が増加。(グラフ：左)

欲しいもので最も多くの子供が答えたのは1997年も2007年も「お金」。10年の時を経て、大幅に伸びた回答は、3位「時間」(26.1%→35.5%)、2位「いい成績」(44.9%→54.0%)、4位「自由」(26.6%→33.0%)でした。勉強や日々の生活では、ゆとりの減少が窺えます。

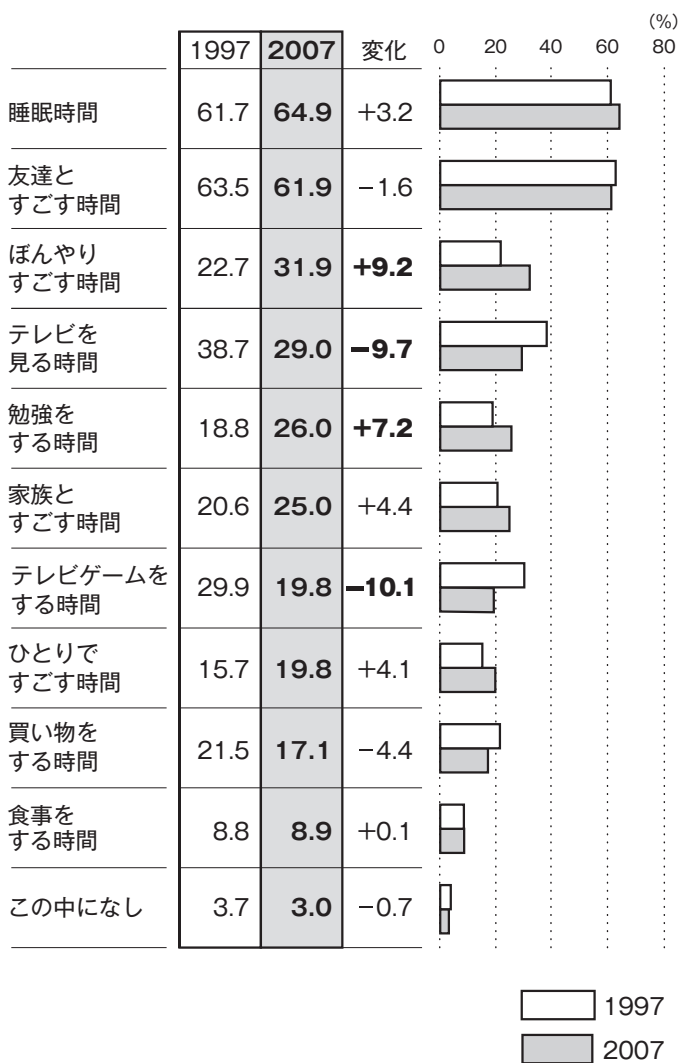
増やしたい時間のトップは、1997年「友達と過ごす時間」から2007年「睡眠時間」に。(グラフ：右)

約65%の子供が増やしたいと答えた「睡眠時間」が、97年の1位「友達と過ごす時間」を抜いてトップになりました。また大きく増えた回答は、「ぼんやり過ごす時間」(22.7%→31.9%)「勉強する時間」(18.8%→26.0%)など。一方で「テレビを見る時間」(38.7%→29.0%)「テレビゲームをする時間」(29.9%→19.8%)の回答が大幅に減少したのも特徴的です。

Q 自分が欲しいものは何ですか？ (複数回答可)



Q もっと増やしたい時間はどんな時間ですか？ (複数回答可)



□ 1997
■ 2007
太字は±5ポイント以上の変化

「時間的ゆとりがない」子供は 30.6% → 41.6% へ大幅増加。 友達と遊ぶより勉強中心。

「時間的ゆとりがない」が増え、日々の生活の中で「放課後や休日に友達の家へ遊びに行く」子供が 14 ポイントと大幅に減っています。また「塾に行かないと不安だ」と思っている子供が増加して過半数を越え、「本当は塾へ行かないでもっと遊んでいたい」が大きく減少。ゆとりがないと感じながらも、勉強ニーズを持っていることが分かります。

	1997	2007	変化		1997	2007	変化
時間的ゆとりがない	30.6	41.6	+11.0	放課後や休日に 友達の家へよく遊びに行く	53.4	39.4	-14.0
塾に通っている	43.9	47.0	+3.1	本当は塾に行かないで もっと遊んでいたい	54.9	47.3	-7.6
塾に行かないと不安だ	44.5	51.1	+6.6				

10年変化 ②

友達への関心が高まるなか、 うまく緩やかな“関係”を確保している子供たち。

友達の数は 10年で顕著に増加。51人から 67人に 16人も増大。

10年で友達の数は 51人から 67人に急増、さらに 76.5%が「深くつきあいたい」と考えています。一方、友達が多すぎるためか、40.5%の子供が「間柄によって連絡方法を意識して区別」しています。

Q 友達は何人ぐらいいますか？

	1997	2007	変化
友人の数	50.71	66.64	+15.9

※ 2007年のみ調査

	2007
人と交際するときには深くつきあいたい方だ	76.5
友達でもその間柄によって連絡の方法（電話、携帯電話、電子メールなど）を意識して区別する方だ。	40.5

2007年の子供たちが、もっと知りたいことは「友達の話」48.1%。 10年で 8.9ポイント増加。

2007年の子供たちがもっと知りたいと思っていること 1位は「友達の話」（39.2% → 48.1%）で大幅な伸びとなりました。これは 10年前にトップだった「タレントやテレビ番組の話」（45.3% → 32.8%）を大きく引き離しており、友達への関心の高さが窺えます。

Q あなたが今、もっと「知りたい」と思うことは何ですか？（複数回答可）

	1997	2007	変化		1997	2007	変化
友達の話	39.2	48.1	+8.9	遊園地やテーマパークの話	25.0	24.8	-0.2
音楽や歌手の話	34.8	43.9	+9.1	占いや運勢の話	19.5	21.5	+2.0
スポーツの話	23.3	36.8	+13.5	パソコンの話	24.3	17.0	-7.3
洋服や髪型の話	37.1	36.0	-1.1	インターネットの話	19.5	16.3	-3.2
本や雑誌の話	29.9	34.9	+5.0	デパートやコンビニなどお店の話	15.4	15.5	+0.1
テレビゲームの話	29.4	32.9	+3.5	外国や海外旅行の話	19.9	15.1	-4.8
タレントやテレビ番組の話	45.3	32.8	-12.5	家や家族の話	12.0	13.4	+1.4
電話や携帯電話の話	21.0	28.5	+7.5	学校の先生の話	8.5	12.1	+3.6
食べ物や飲み物の話	14.1	27.9	+13.8	塾や勉強の話	5.6	11.5	+5.9
おもちゃや文房具の話	29.1	26.3	-2.8	エッチな話	3.5	2.6	-0.9

家庭での関係は良好に。家は自分を解放できる“休息”の場所。 本を読む子供が増加し、実体験よりも映画やドラマなど コンテンツで感動して泣く子供たち。

家族関係はおおむね良好な方へ移行。 親への信頼も向上傾向。

10年間で「友達のことを、よく父母に話すほうだ」(62.3% → 66.6%)、「将来は親と同じような人になりたい」(53.7% → 60.3%)、「親と同じような人と結婚したい」(35.7% → 43.0%)は増加。一方、「家族にいていない秘密がある」(50.3% → 45.6%)や「家出をしたいと思ったことがある」(52.6% → 44.8%)は減少しました。10年間で家族関係は良好に移行し、親とのコミュニケーションも向上しているようです。

	1997	2007	変化
友達のことをよく父母に話すほうだ	62.3	66.6	+4.3
家族にいていない秘密がある	50.3	45.6	-4.7
家出をしたいと思ったことがある	52.6	44.8	-7.8
将来は親と同じような人になりたい	53.7	60.3	+6.6
親と同じような人と結婚したい	35.7	43.0	+7.3

10年で読書する子供が約15ポイント増加。 3人に1人が「本をよく読む」。

「本をよく読む」(22.3% → 37.6%)と答えた子供は15.3ポイントも増大。また前述の「もっと知りたいと思うことは？」の質問でも、「本や雑誌の話」(29.9% → 34.9%)が増えており、子供たちの読書傾向が高まっていることが分かります。

Q 本(文学全集、図鑑など)をよく読む

	1997	2007	変化
本をよく読む	22.3	37.6	+15.3

実体験よりコンテンツで泣く子供たち。 約85%が映画・ドラマ・本などで泣く。

感動して涙を流すのは、「学校行事など実体験」では13.6%ほど。映画やドラマや本などのコンテンツで涙を流すのが今の子供たちの傾向のようです。「TVドラマの最終回や好きな本」「携帯小説のクライマックス」で泣いた、などの回答が見られました。また実体験では、「顧問の先生の話」「サッカーの試合で勝った時」「修学旅行のホームステイ先の人との別れ」などの回答がありました。

Q あなたが最近、感動して泣いたことは何ですか？

自由回答を集計(N=248) ※ 2007年のみ調査

	2007
映画	28.7
ドラマ	23.9
本	17.3
その他コンテンツ	16.5
学校行事など実体験	13.6

興味関心の場で、“自我”の形成に励む子供たち。 自分の意志で習い事をし、ライバルもいる、 たくましいアフターバブル・キッズ。

「興味ある話は自分で調べる」「ライバルがいる」 「習い事を自分の意志で決める」が過半数。

「興味ある話は自分で調べる」(38.8% → 51.1%)、また「勉強やスポーツなどでのライバルがいる」(44.1% → 51.6%)子供がそれぞれ増えて過半数を超えました。また習い事を始めるきっかけは親の勧めではなく、「自分がやりたいと思ったから」(51.0%)という子供が過半数を占め、興味関心の場でしっかりと自我を確立する子供たちの姿が浮かび上がってきます。

Q 習い事のきっかけは？

※ 2007年のみ調査 習い事をしている人ののべ集計 (N=796) (%)

	1997	2007	変化
興味のある話は、人に聞くより自分で調べるほうだ	38.8	51.1	+12.3
勉強やスポーツなどのライバルがいる	44.1	51.6	+7.5

	2007
自分がやりたいと思ったから	51.0
親に勧められたから	26.1
その他	22.9

興味があるのは「好きなスポーツをしつづける」「山のように本を読みつづける」が増加。

「今してみたいこと」で、10年間で最も大きく伸びたのは、「山のように本を買って読みつづける」(15.7% → 22.8%)。ついで「好きなスポーツをしつづける」(27.9% → 34.5%)が増加しました。1997年に比べ、“自分作り”に意識して励む2007年の子供たちという印象です。

Q あなたの今の年齢やお金、時間のことを考えにいれないで、また親にしかられることもないとしたら、あなたは次の中で何をしてみたいですか？ (○は3つまで)

	1997	2007	変化
デパートで好きなものを買う歩く	53.5	47.0	-6.5
毎日遊園地で遊ぶ	37.4	37.3	-0.1
好きなスポーツをしつづける	27.9	34.5	+6.6
世界中へ冒険の旅に出る	35.1	30.4	-4.7
いろいろなテレビゲームをしつづける	30.1	26.5	-3.6

	1997	2007	変化
山のように本を買って読みつづける	15.7	22.8	+7.1
日本中のレストランを食べて回る	20.7	17.5	-3.2
好きな楽器を演奏しつづける	9.9	11.0	+1.1
砂浜に毎日寝ころんで過ごす	9.9	10.8	+0.9
彫刻したり絵画や小説を書きつづける	7.7	5.8	-1.9

ドキドキわくわくするのは、試合・大会への出場や学校行事などが多数。

「部活動の最後の大会」「サッカーの試合でシュートを決めた時」「修学旅行のキャンプファイヤー」など、習い事や部活での発表の場や学校行事での出来事などを挙げる子供が多くみられました。

Q あなたが最近ドキドキわくわくしたことは何ですか？ 自由回答を集計 (N=316) ※ 2007年のみ調査

	2007
コンテンツ (映画、本など)	24.4
試合・大会などへの出場	21.7
学校行事	21.7
恋愛・友情など人間関係	10.7

	2007
遊園地、コンサートなど外出イベント	9.5
学校の日常生活	5.7
その他	6.3

[調査概要]

■調査地域 首都圏 40km

■調査方法 訪問留置自記入法

2007年「子供調査」調査設計

- ・調査対象 2007年7月1日現在で
小学5年生～中学3年生に
在学する男女
- ・サンプル数 800人
- ・実施期間 2007年6月18日～7月9日

	男子	女子	合計
小学5年生	80	80	160
小学6年生	80	80	160
中学1年生	80	80	160
中学2年生	80	80	160
中学3年生	80	80	160
合計	400	400	800

1997年「子供調査」調査設計

- ・調査対象 1997年3月31日現在で
小学4年生～中学2年生に
在学する男女
- ・サンプル数 1,500人
- ・実施期間 1997年3月7日～3月31日

	男子	女子	合計
小学4年生	150	150	300
小学5年生	150	150	300
小学6年生	150	150	300
中学1年生	150	150	300
中学2年生	150	150	300
合計	750	750	1,500

[参考資料]

アフターバブル・キッズ（1992～97年生まれ）の子供の成長過程には、大きく3つの特徴的な社会的背景があります。バブル後の時代の閉塞感の中で、子供を取り巻く環境が激しく変化した時代といえるでしょう。

- ①更なる少子化（1クラス人数の減少。1人の子供への期待・関心増大。）
- ②ITによる情報爆発（生まれながらのデジタル世代。携帯やインターネットで情報が溢れる。）
- ③ゆとり教育の導入（ゆとり教育によるゆとりの減少。週休2日で塾や習い事が増加。）

	1997年の子供	2007年の子供
年少人口 (0～14歳)	2001.4万人 (1995年国勢調査より)	1752.1万人 (2005年国勢調査より)
全人口比	15.9% (1995年国勢調査より)	13.7% (2005年国勢調査より)
子供1人 当たり大人数	5.29人 (1995年国勢調査より)	6.30人 (2005年国勢調査より)
10～14歳 人口	733.7万人 男/375.6万人 女/358.1万人 (1996年人口動態調査より)	600.8万人 男/308.0万人 女/292.8万人 (2006年人口動態調査より)
1クラス生徒数	小学校/28.4人 中学校/33.3人 (1996年学校基本調査より)	小学校/25.9人 中学校/30.4人 (2006年学校基本調査より)